

つくしだより



平成30年7月号

平成30年度 東京つくし会

評議員会報告

都連副会長 轡田 英夫

6月20日の10時から12時、世田谷区立烏山区民会館集會室において、評議員会が行われました。

来賓として都民ファーストの会大津ひろ子様、自由民主党伊藤しようこ様、日本共産党藤田りょうこ様、立憲民主党・民主クラブ中村ひろし様、かがやけTokyo上田令子様、各都議会議員の皆様と東京都から福祉保健局障害者施策推進部精神保健・医療課長の西脇誠一郎様、一般から、手をつなぐ育成会森山瑞枝様及びみなねっと理事長本條義和様(祝辞代読松沢監事)と東京つくし会相談役・府中梅の木会会長の野村忠良様のご臨席を賜りました。定足数66名中51名の出席者と13名の委任状計64名の参加をもって評議員会は成立いたしました。

会長及び来賓の挨拶の後、第一号議案の事業・活動報告を行いました。今回初めてスライドショーを併用しての提案でした。主要な点としては①都議会においてマル障が可決され、31年1月から一級の手帳所持者に対し実施するよう予算措置がついた

ことです。大きな一歩でした。②交通運賃割引制度の精神障害者への適用を求め衆参両院に請願書を提出しましたが審議未了となつてしまいました。しかし、国交省から日本バス協会会長へ、そこから各バス協会会長へと精神障害者の運賃割引に協力するようという文書が流れました。

その結果か、西鉄では運賃割引を実施いたしました。全国的な実施を求めるさらなる運動が必要です。③東京つくし会創立50周年事業を行いました。平成30年2月23日には、中野サンプラザにおいて多くの参加者をもって記念式典が行われました。今後の活動の展望する会となりました。50年の活動を記録した記念誌を発行いたしました、千円で頒布しています。第二号議案の決算報告では、当年度経常収支で118万円の赤字というつくし会の厳しい財政状況が報告されました。

第三号議案の活動方針では、①精神障害者の雇用における配慮を求める事。②身体拘束の問題への取組。③つくし会の財政問題に関する取組、その他が提案されました。第四号予算議案でも、経常収支赤字補填のため、特別会計からの繰入

金を計上せざるを得ないという苦しい予算案でした。

第五号議案では、現行の理事の他に、理事補佐だった新宿フレンズの大山竹彦さんが理事に。理事補佐にアットホーム・歩歩(ほほ)(昭島市)の池田正さんの追加が提案されました。

以上の議案が滞りなく承認されて評議員会は無事終了しました。また、その後の自由意見で①精神科特例を無くして欲しい②少ない予算で良くやっている。自主財源確保のための何らかの収益事業を行ったらどうかという意見がでました。

平成30年度東京つくし会 役員

(敬称略)

会長 眞壁博美

副会長 植松和光 川崎洋子

理事 轡田英夫 本田道子

安藤万寿代 大山竹彦

小澤輝江 鬼頭博子

松沢勝

池田正

理事補佐 苛原真也 松尾鉄也

監事 羽藤邦利 野村忠良

相談役 服部百合子

よろしくお願いいたします。

都民精神保健福祉講演会 報告

「精神障害者の雇用をより進めるために」

「精神障害者の雇用義務化」の法改正に伴う
企業からの相談事例を踏まえて

都連副会長 川崎 洋子

去る6月20日、烏山区民ホールで開催されました。一般就労したい、生活保護から脱出したい、収入を得て自立したい等々、当事者からの声を多く聴きます。しかしながら、なかなか進まないのが精神障害者の就労です。そんな中、今年度4月から表題のように法が改正されました。

講師の古野素子氏（東京都障害職業センター）は障害者職業カウンセラーとして、企業からの相談を受けておられます。その相談事例から、いかにして精神障害者が就労できるかを考えてみたいと思います。

企業からの相談事例

新たに雇用する場合の心配

*きちんとして通ってもらえるか。来れなくなったりしないか。

*病気が悪化、再発しないか。会社で調子が悪くなった時、どう対応したらよいかかわらない。

*どんな仕事ができるか。

雇用している人の定着についての悩み

*出勤が安定しない。

*頑張りすぎて休む傾向がある。

*仕事面、人間関係面の不安。
*特性・状態がつかみづらい。

以上のことから、自分の状況・思いを整理しておくことを古野氏は説かれました。

*仕事の力（適正・技能・資格・経験）

*職業生活力（定時出勤、欠勤時の連絡、集中力・持続力、対人技能、求職技能）

*日常生活の力（起床、就寝、食事、休養、金銭管理等）

*健康管理の力（通院、服薬、不調のサインの気づき）

就労する準備として、自分のできること、できないことを確認し、必要に応じて支援システムを利用することで、就労につながるのかなと感じました。



みんなねっと総会・会長会議 報告

理事 大山 竹彦

平成30年6月4日（月）みんなねっと（全国精神保健福祉会連合会）第一回定期総会が、池袋駅前のアットビジネスセンター池袋駅前別館9階において開催されました。

冒頭、本條会長より「本年4月1日より、雇用促進の目標値が、2.0%から2.2%に、そして2.3%へと施行令が実施され、短時間雇用を押し上げることを期待している。

又、来賓の厚生労働省課長からは第5期障

害計画では「地域包括ケアシステム」等地域づくりの活動を通していきいきと暮らせるような活動が求められていることの挨拶がありました。議長の選出後、総会は46名中43名の出席で成立していることの報告がありました。総会の議案はすでに理事会において審議されていたこともあり、一号議案から二号議案と速やかに一括審議、採決されました。第三号議案は平成30年度事業計画です、重点課題は賛助会員の拡大、組織強化と共に、呉秀三が『精神病患者私宅監置の実況及び其統計的観察』刊行100周年の筋目にあたります。が昨年に起きた寝屋川事件は現代版私宅監禁とも言える状況に置かれていたのでは、精神障害を持っていても安心して地域生活を送れることが出来る様に、私たちは家族の立場から実情を伝えます、同時に偏見や差別等に対しては障害者権利条約の視点と国際的な視野での、行政への働きかけを努めていきます。第四号、第五号議案は提案に沿って採決されました。

二日目は会長会です。会長会は意見の吸い上げと本音議論の展開が期待される所です。東京つくし会からは、マル障運動が一定の成果を上げ、精神障害者手帳1級所持者が、平成30年度から東京都医療費助成制度の対象となることを報告致しました。全国家族会其々に苦しい中でも一步一步前進していることの報告がありました。

蒼空会第31回定期総会と講演会に参加して

都連会長 眞壁 博美

5月14日午後、東久留米・清瀬地区家族会の「蒼空会」の総会に参加させていただきました。参加者は、約60名、来賓には、多くの地域の支援者や地元議員、行政関係者の参加があり、議事も提案通り承認されました。

総会後は、「病院のケースワーカーとの上手な付き合い方」というテーマで、山崎病院医療相談室主任・峯岸清久氏の講演がありました。内容を簡単に紹介します。

病院のケースワーカーの仕事

◆相談業務（受診したい・入院したいという相談を受けて、主治医につなげる）

◆会議運営（医療保護入院が長引いている方に関しては定期的に会議を持たなければならぬという法律ができその会議の調整）

◆デイケア

◆訪問看護（一人暮らしで、買い物に行けない、片付けられない、散歩に誘い出すなど。何も無い時から、訪問していることに意味がある）

◆各種連絡会等

◎仕事の間としては、病棟・外来・デイケア・訪問看護・各種連絡会等で、患者さんにとっては、入院しても退院しても同じスタッフがかかわることが大切と考えているそ

うです。そして、具体的な事例をいくつか挙げて退院支援や訪問看護の大切さをお話ししていただきました。

最後にケースワーカーの利用について、「遠慮しないで気軽に相談してほしい」というメッセージを参加者に伝えていました。訪問看護は、キャンセルもOK、ゴミ屋敷状態でもOKとのことでした。

ケースワーカーの仕事を改めて学ばせていただきましたが、皆さんも困り事・悩み事をケースワーカーに気軽に相談してみてはいかがでしょうか。

改めて再出発

「みんなの精神保健福祉

東京推進会議」

都連副会長 本田 道子



改めて？ え、何を。再出発って？

そうです。初めて皆様にお伝えできていることになりました。

「東京マル障の会」として東京つくし会、当事者の皆様、そして事業所で働く支援者の皆様、などから立ち上がり見事なナイスプレーでわずか1年強の活動にもかかわらず東京都の「医療費助成制度」に精神障がい者も対象とすることに成功しました。

手帳の一級の方はこの11月から申請をお願い

いたします。

せっかく作った制度も利用しなければ「もったいない」

なのでせっかく立ち上がったこのグループも、手をとりしつかりつないで新たな活動をしていこうということになりました。

当面は「福祉手当」などまだまだ差別が残っている制度について変革をめざしてゆきます。みなさまの協力が支えの会が誕生しました。

ご支援をよろしくお願い致します。

東京つくし会、理事退任にあたり

元都連理事 中住 孝典



約3年という短い期間でしたが東京つくし会の理事の方々、多くの地域家族会の皆さま方と触れ合い、一緒に活動することができ本当に良かったと思っております。平成25年12月に青梅市で家族の方々と家族会「ほっと・スマイル」を立ち上げ、この時会長の本眞壁さん、副会長の川崎さんには大変お世話になったことを思い出します。その後間もなく川崎さんから都連理事のお話をいただきました。青梅の家族会も立ち上がったばかりで、本当はそんな余裕はなかったのですが、恩返し・微力ながら何か力になることができれば、青梅の家族会の充実のためになれば・学

びたい・・・そんな思いで理事を引き受けさせていただきました。始めは、あまりの理事の方々のキャラの濃さ、主張の強さ、精神保健福祉社に対する知見の広さや深さ、つくし会が行っている活動の幅広さに圧倒されました。「何か力になることができれば」なんておこがましく、つくし会を通して学ばせてもらうことばかりだったように思います。毎月の理事会は決まって港区の東京障害者福祉会館、普段の仕事より早く家を出て2時間電車に揺られれば1日かけての会議、皆さんタフだなーと思いながら通いました。会議はきつかったですがおうのは楽しかったです。50周年記念式典の準備、マル障の署名活動、高田馬場まで皆で訴え歩いたパレード、多摩ブロック会議や家族相談員養成講座、その中で出会った他の地域家族会の方々との交流、本当に懐かしい。「お手本や尊敬できる人は遠くにいる人ではなく、身近な中にいる・・・決して偉ぶらず」そんなことを感じさせてもらう皆さん方との出会いでした。私は北海道に帰りますが東京つくし会や青梅の家族会とは今後もつながりながら後方支援に回りたいと思います。同じ時を共に生きる人間同士としていかに対等な関係性を大事にしながら支援者として存在しているか、私の生きる命題です。この想い



講演会のお知らせ

- ☆8/19(日)講演会「家族として精神疾患に向き合い、見えてきたこと」
& パネル討論会「家族会と精神保健福祉の現在・未来」
講師：みんなねっと理事 野村 忠良氏 申込不要 先着100名
会場：くにたち福祉会館 主催：シュロの会 ☎090-7195-8994
- ☆9/9(日)「身近な病気 統合失調症」 会場：小平市中央公民館ホール
講師：精神科医 済生会鴻巣病院副院長 白石 弘己氏
主催：小平市けやきの会 ☎042-343-4559 先着180名 申込不要

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

尽きることなく北の大地に向かいたいと思います。今までありがとうございます。

☆賛助会費(敬称略) ☆
大田つばさ会 5000円
伊藤 千尋 2000円
ありがとうございます。

編集後記

6月のある日、アップリンク渋谷にて「夜明け前」の映画を観ました。・・・呉秀三と無名の精神障がい者の100年・・・心を病んだ人々は、なぜ閉じ込められねばならないのか。精神の病とは、人間の尊厳とはと問いかけた映画です。

呉氏は今から100年前、精神病に有効な治療法が無かった時代に、座敷牢に幽閉された精神障害者を救おうと尽くされた方です。映画はドキュメンタリーで、呉氏の半世紀と松沢病院の資料館などが収録されていました。先日、役員会終了後に松沢病院の敷地内にある、呉秀三の銅像と資料館を拝見いたしました。様々な資料と写真からは、当事者の大変辛く厳しい状況が伝わり、心が痛みました。

現在でも幽閉されての事件が多々あります。精神病は誤解と偏見・差別の対象となり、この病を持つ当事者と家族は苦しみと犠牲を強いられています。あらためて精神障がい者の問題の深さを考えました。

近年になく今年は、紫陽花の花が色鮮やかに大変美しく咲いており、日頃の疲れが癒されます。

都連理事 安藤 万寿代

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。